



実例集
Vol. 9

「三重の木」で 家を建てた人たち

CASE 1 四日市市 Iさん邸
**森と人とのかわりを語り継ぐ
 葉枯らしスギの有機的な家**



1/ 南面の開口から見たLDK。床はヒノキで、柱や梁、腰板はスギ。大黒柱には施主がクスビを入れた材が。キッチン・ダイニングの上部はロフト。
 2/ 玄関先の土間には深い軒庇が掛けられ、木格子で囲われた小庭が設けられている。
 3/ 軒の深い濡れ縁は、物干し場に重宝。
 4/ 床の間には、京都の材木店で施主が選んだ磨き丸太を使用。

●設計・施工 / (有)明日松
 TEL.059・321・0933
<http://www.asu-naro.jp>
 ●納材 / 速水林業ほか
 ●建築坪単価 (非公開)

里山風景にたたくIさん邸は、瓦屋根に総スギ張りの平屋。屋内は、仕口や継ぎ手が現わしになった伝統的な木組みと土壁で構成されている。「キッチンガーデン（果樹や野菜などを彩りよく植えた、観賞と収穫の目的を兼ねる庭）」のある暮らしに憧れ、五年がかりで建築地を探しました」

城や寺めぐりが好きで、建てるなら木組みの家と考えていた施主夫婦の夢を実現させたのは、四日市の工務店「明日松」。同社代表の鈴木さんは、津市美杉町のスギ林へ夫妻を誘い、施主は自宅の用材となる木にクスビを入れた。約一年ゆっくりと葉枯らし乾燥されたスギは今、LDKの中央で大黒柱として家族の暮らしを支えている。

LDKの両側に居室を配し、一部にロフトを設けたシンプルな間取りで、濡れ縁の向こうには、美しくレイアウトされた菜園が育っている。

「家づくりを通して、森が現在置かれている状況、守っている職人さんの技と心を知ることができました。我が子が大きくなった時、この家と森との関係をぜひ教えてあげたい」

この柱はお父さんが伐った木で、土壁の中にはお母さんが編んだ竹小舞が潜んでいる…それを知ったお子さんは、家のこと、両親のこと、森のこと、すべてを好きになるにちがいない。

CASE

津市 Oさん邸

2 里山の自然と一体になる 上下階に配されたウッドデッキ

なだらかな里山を西に望む郊外に、上下階にウッドデッキを配した、人なつこい家が建っている。「子供が生まれてから、木や素材のことが気になるようになって。住宅雑誌で地元工務店さんの物件を見つけ、ピンとききました」

Oさんは、三重の木や漆喰壁など住む人の健康を気遣う自然素材を用いながら、現代的なデザイン住宅を手掛ける「エラ・プラン」の方針が気に入った。玄関に入ると、華やかな木の香りに包まれる。床の表面に塗られた植物性塗料の香りだ。室内の床や、外壁、ガレージなどの木部はOさん自身が塗り、家族代表として積極的に家づくりに参加した。

構造材は尾鷲ヒノキ、床や天井には美杉産のスギが用いられている。木材のロスをなくすべく、モジュールを木材の規格サイズに準じた。ゆえに二階は、同じ広さの方形がリビング、ダイニング、キッチン、水回り、和室の五パートに振り分けられている。

その中央に、中庭的にウッドデッキが設けられ、二階へ上がると、ここにもすべての部屋からアクセスできるルーフトデッキがあった。

「屋根の上の開放感で特別でしょう。危なさを心配するより、自分の家は最高と思える時間を過ごしてもらいたくて、ね」

設計者の狙いどおり、夕焼け色に染まる里山のパノラマを、一家はここから独占している。



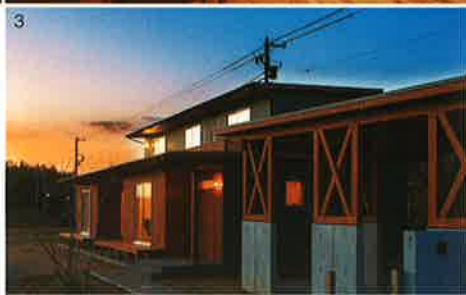
1/キッチンからリビングを望む。LDKは仕切りのないワンルームだが、天井の材質や高さでシーンが分けられている。
2/手すりが低めの二階ルーフトデッキ。開放的で気持ちいい。
3/スギ板とガルバリウム鋼板を組み合わせた外観。夏の強い日差しや雨よけに軒は深めに設定されている。

●設計・施工/株式会社エラ・プラン TEL.059-238-0955

<http://eraplan.com>

●納材/NPO法人もりずむ・速水林業ほか

●建築坪単価 約73万円



バーベキューがしやすいように一部がへこませてある一階のウッドデッキ。屋根上部には煙抜き窓も設けられている。



CASE

3

津市 Nさん邸 食堂を家の中心に 小さな吹き抜けで上下階を繋ぐ

スギのおだやかな色調と白い漆喰のコントラストが美しい。Nさんの住まいは二階建てながら、木造ガレージの分だけ延びた横長プロポーションのおかげで、高さをあまり感じさせない。

構造材には自然乾燥させた県産ヒノキとスギを使用。部屋によって壁を日本漆喰、シナ合板、ラワン合板と変化させた軽快なデザインの家には、設計・施工を担った寺西さんのポリシーが随所に織り込まれている。

そのひとつが、中央にあるダイニング。

「食べることは楽しいでしょう。食事の場を家の真ん中に配置すると、そこが家族の重心になります」

南向きの二等地に配されたダイニングは上部が吹き抜けている。

遊び盛りの子供三人には窮屈な思いをさせたくないが、親としては静かに過ごす時間も欲しい。

そんな施主夫妻の要望を、二階を親空間、二階を子空間とし、吹き抜けでやりわり繋ぐことで解決させた。この吹き抜けによって、ダイニングにおいてもキッチンにおいても、二階ホールで遊ぶ子供たちの気配がそれとなく伝わってくる。

土間に設置された薪ストーブは、仕切りのないLDKを暖めるのももちろん、二階ホールに暖気が上るので、冬でも子供たちは自室にこもらず、ぽかぽかと居心地いいホールに集まっている。



- 1 / スギと白漆喰壁でまとめたリビングは、南側を吹き抜けに。薪ストーブが二階へも暖気を送る。
- 2 / 南面のウッドデッキからダイニングを望む。
- 3 / 三つの子供部屋をつなぐ二階ホール。子供たちは多くの時間をここで過ごす。
- 4 / 外壁は一階がスギ板張りで、二階は漆喰仕上げ。屋根は軽いガルバリウム鋼板で重心を低く。家族はガレージに通じる内玄関から出入りし、表玄関はゲスト専用と使い分けられている。

●設計・施工 / 寺西建築株式会社 TEL.059・245・3366

<http://www.tanoshiya-teranishi.com>

●納材 / 田上ほか

●建築坪単価 約55万円(設計・監理別)





CASE 4 名張市Iさん邸
4 地産地消をコンセプトにした
 エアコンいらずの開放的な家

訪問した日は、ジメジメした梅雨のさ中。ところが玄関を開けると、清々しい空気と木の香りに出迎えられた。湿気を吸わないビニールクロスに囲まれた家ではこうはいかない。

山登りやキャンプなど、アウトドアが趣味のIさん一家。自然を愛するだけに、日本の山が抱える問題への関心も高く、間伐材で木工を楽しむワークショップに参加した。

イベントを主催したのは、製材から住宅建築までを手掛ける木材会社。地元の山を元気にしようという県産材をアピールする姿勢に共感したIさんは、同社グループの住宅事業部にマイホームを委ねた。

「住まいも食と同じ。地域のためにも、子供たちのためにも、地産地消が理にかなっていると思って」

二階に二部屋のみ個室を設け、あとは上下階ともオープンスペースのシンプルな間取り。四面をスギ張りせず、天井には無節材、壁は漆喰、紙クロス、腰板を組み合わせたことで、軽快な印象に仕上がった。「小屋組を眺めたい」との要望から、個室以外は天井が張られていない。二階から吹抜けを見上げると、梁や小屋組が見え、想像以上の開放感がある。

Iさん邸にはエアコンがない。夏は風が駆け抜け、冬は薪ストーブが全館を暖めてくれる。

子供たちに本に親しんでほしいとの思いから、天井高の作り付け本棚には、たくさん本が並ぶ。



二階廊下からの眺め。吹抜けとしているため、空気が循環しやすく、冬場は薪ストーブが全館を暖める。



1 / スギと、コテのタッチを残した漆喰仕上げの玄関。上り框までのタイルがユニーク。
 2 / ダイニングからオープンキッチン、リビングを見る。防火用の垂れ壁をガラスにしているので明るい。キッチンや洗面所も、スギやヒノキで家具や柵が設えられている。
 3 / 二階プレイルーム。廊下や吹抜けとの間に隔壁はなく、子供たちの成長に合わせて、間仕切りや建具が入られる予定。

●設計・施工 / ノッティーハウスリビング TEL.0595-98-0678

<http://www.saneirinsan.com/>

●納材 / 三栄林産株式会社

●建築坪単価 約70万円(参考)



CASE 5 松阪市 Mさん邸

5 木と漆喰壁の館を風が駆け抜ける 広い玄関土間を持つ平屋

玄関に足を踏み入れて驚いた。方形の広大な土間となっており、ラブラドル、薪ストーブ、マウンテンバイクを迎えられたのだ。
「平屋なのに土間とリビングを広くしたおかげで当初欲しかった書斎を諦めました。ゆったりとした空間が気に入っています」

土間とLDKがひと続きのバブリックゾーンを東に、プライベートゾーンを西側にまとめたMさん邸の間取りは、シンプルかつ機能的だ。
構造材や床にはヒノキ、建具にはスギと地元材がふんだんに使われ、貫や込み栓による伝統工法で組み立てられている。

白壁は、たっぷりのアサスサとツノマタ(海藻)を練り上げた左官仕上の漆喰壁。ご主人ばかりか、当時臨月だった奥さんも壁塗り作業に参加した。
寝室と子供部屋の小屋裏にはロフトが設けられ、廊下に面した引き戸を開ければ風が抜ける仕組み。土葺きの瓦屋根には越屋根が掛けられ、空気を流して夏場の熱気を逃がす。

「温暖多湿なこの地方で家を建てるなら、自然や天然素材をうまく利用すること」

設計施工した「青木工務店」の青木さんは語る。
ハイテクやデザインが主張する家より、昔からのローテクの知恵が活かされたMさん邸のほうが、きっと快適で長持ちするに違いない。



1 / リビングから見た玄関土間。8帖あるので、薪ストーブ、MTBを置いて、愛犬がゆったりくつろげる。
2 / ロフトの建具を開ければ、風が廊下と自在に行き来する。
3 / 瓦屋根の上に載った鋼板の越屋根が、小屋裏の熱や湿気を放出する仕組み。深い軒が日射を遮り、雨をしのいで木部を守る。
●設計・施工 / (有)青木工務店 TEL.0598-34-0835
●納材 / 松阪飯南森林組合
●建築坪単価 約68万円



ヒノキ床、漆喰壁のLDKと和室が隣接なで玄関土間を囲む。当初は建具で仕切る予定だったが、夏場は風が通り、冬は薪ストーブが暖めるので開放とした。

CASE 多気町 Oさん邸

6 機能的な通り土間でシーンをリセット 里山に寄り添う黒い平屋

「団欒の場とプライベート空間は分けたい」との要望でしたので、土間を挟んで西を団欒棟、東を個々の居室としました」

南北に風が抜けて夏は涼しく、冬は薪運びやストックに重宝する土間は、子供たち用の玄関にもなっていて、居間を通らずに友達を部屋に招き入れられるメリットも。なかなか機能的である。

屋根から突き出た煙突、黒い外壁に規則正しく並ぶ窓の列……南面から見たOさんの家は、まるで田園風景の中を走る機関車のような。

「海の博物館(鳥羽市)って良いよなあ」

建具師である施主Oさんと、建築家は同い年の仕事仲間。お互いの趣味嗜好を知る仲でもあったので、マイホームの話は自然と持ち上がった。

職場の近くに三百坪の土地を見つけてきたのは施主。その場に立った建築家は、なだらかな里山の稜線に添う和モダンな平屋を提案した。

なるほど。黒塗りのスギ板や、コンクリート打ち放しの衝立は、海の博物館のテイストに近い。

ガラス庇が掛けられた玄関で、縦格子が美しい引戸を迎える。屋内に入ると、光をやわらかく透過する障子、品のいい襖が、漆喰と木の空間にしっとり収まっている。建具はもちろん全て施主の作品だ。

キッチン後方の戸を開けると、館を分断するように通り土間がある。



- 1/ 南北を貫く通り土間は、愛犬の居住スペースにもなっている。
 - 2/ リビング隣の和室は洗濯物を畳んだり、お昼寝したり、来客の宿泊にも最適。
 - 3/ 子供たちが手伝いしやすいオープンキッチン。屋根勾配を活かしたロフト(左手)は読書好き一家の図書室になっている。
- 設計/DROPS TEL.0598-58-1348
http://www.archi-drops.com
- 施工/磯田建設株式会社
- 納材/ウッドピア松阪ほか
- 建築坪単価 約60万円(設計・監理別)



キッチンからリビングを望む。床はヒノキ板で、壁は白漆喰仕上げ。目隠し、雨風除けとして、道路側にはRC打放しの衝立が設けられた。



CASE 7 大台町 Sさん邸
 近くの山の木を地元大工が手刻み
 ダイナミックな架構を現しに

Sさんが、第二の人生を過ごすステージに求めたのは「薪ストーブのある木の家」。

以前の住まいも木造で土壁だったが、北側に山林が迫り、窓が小さく薄暗かったため、木の良さは生かすつ明るく開放的にしたかった。

「外壁には焼杉を。薪ストーブの暖気を全館に巡らせたい。夏場は井戸の冷気を導入したい」。いろいろな注文に応じてもらいました。

家づくりを担ったのは地元の「野呂建築」。元々の知り合いであり、施工例を見て温かみのある木の使い方が気に入って託すことにした。

三世代五人が暮らす新居は、東西に延びる長方形の平屋。いぶし瓦に焼杉板張りの黒い外観は、遠目には閉鎖的に映るが、近寄ると、炭化したスギの表情や無垢材の格子が和ませてくれる。何より、屋内に入った時の印象が明るい。

南北いっぱいリビングから東西へ廊下が延び、その南側に居室を、北側にユーティリティを配したシンプルなお取りで、南面には外廊下よろしくウッドデッキが巡らされている。

構造材は地元産のヒノキを手刻み。床もヒノキで、壁板や造作家具には主にスギを使用。玄関や廊下は腰上を漆喰塗りに。天井の二カ所にトブライトを設けて照度を稼いでいる。



- 1/ヒノキの香りが迎える玄関は、腰上を漆喰仕上げに。外壁が黒い焼杉ゆえに、とても明るい印象を受ける。
 - 2/主寝室の奥に設けられたヒノキ造りの書斎。
 - 3/床がヒノキ、壁と天井がスギのトイレには男性用便器も備わっている。合板やビニールクロスは一切使われていない。
- 設計・施工/野呂建築 TEL.0598-83-2454
 - 納材/松阪木材(株)
 - 建築坪単価 約75万円



キッチンから見たリビング。現しの架構は古民家風に塗装。広葉樹の一枚板を使ったテレビ台と吊り収納は大工による造作。

間伐が適正に行われ、地表をシダが覆う健康的な森林。



家を建てるなら「三重の木」で

日本は国土の三分の二を森林に覆われた「緑の列島」です。わたしたちは古くから、身近な森林の木で家を建ててきました。

ところが、プレハブや鉄骨、鉄筋コンクリート住宅の普及や新建材の開発により、木材需要が減りつつけるばかりか、今やその約七割を安価な輸入材に頼っています。

国産材の利用低下にともない、森林の有する経済的機能は大きく損なわれ、手入れの行き届かなくなった森林の荒廃が進んでいます。林業や製材業といった地場産業は低迷し、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止に寄与する「酸化炭素の吸収・貯蔵」といった森林の持つさまざまな機能が発揮できなくなっているのです。

健全な森林機能を維持するには、木を伐つて、植えて、育てるという「緑の循環」が必要で、わたしたちができるのは、積極的に近くの山の木を使うこと。三重で家を建てるなら、品質の確かな「三重の木」で。

本冊子は、「三重の木」認証材を使って、認証工務店・建築家が三重県内に建てた住宅の実例集です。建築坪単価は住宅の大きさや間取り、建築地によって異なりますので、参考程度にお考え下さい。

三重県木材協同組合連合会 <http://www.mienoki.net>
三重県津市桜橋1丁目104 TEL059-228-4715 FAX059-226-0679

〔三重の木〕認証業者